

都市に求められる多様なニーズに対応したモビリティを 目指して



横浜市 温暖化対策統括本部長 野村 宜彦

横浜市の人口と世帯数の推移



高度成長期





みなとみらい21事業



金沢地先埋立事業

港北ニュータウン建設事業



6 大事業 (1965年構想発表)



地下鉄建設事業



高速道路網建設事業



横浜ベイブリッジ建設事業

1 次世代交通の普及促進 (EV,FCV,PHV)

2 シェアリング

- ・基本的な考え方
- ・具体的な事例

「チョイモビ ヨコハマ」、「smaco」、「baybike」

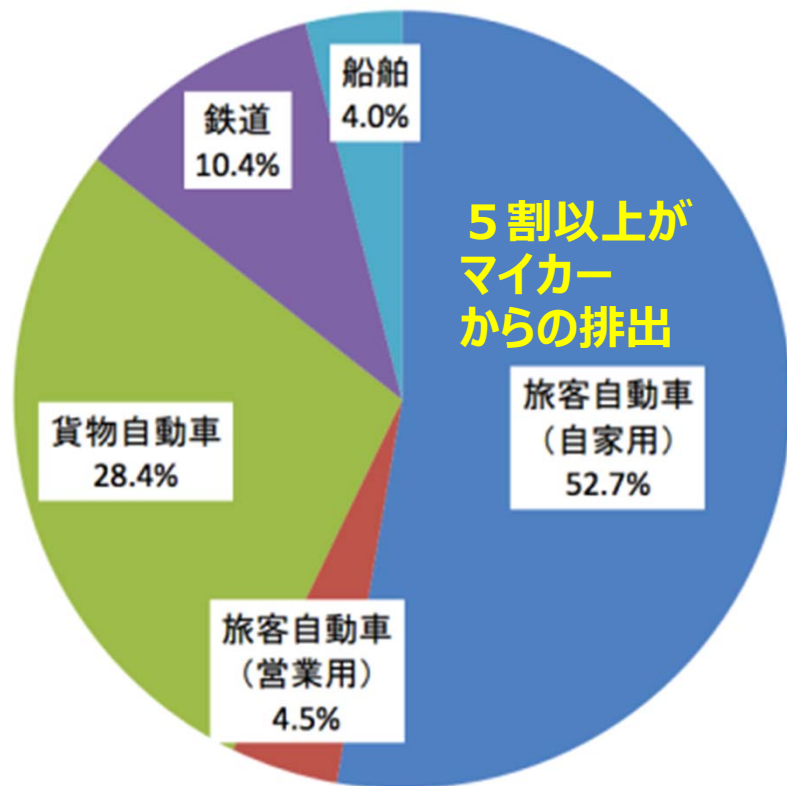
3 都心部の活性化

- ・みなとみらい2050プロジェクト

1 次世代交通の普及促進

運輸部門の二酸化炭素排出量（2014年度）

横浜市地球温暖化対策実行計画（平成26年3月）



○運輸部門の取組方針

自動車からの排出の詳細は、旅客自動車（自家用）が最も多く、運輸部門全体の52%を占めている。

削減するためには、自動車単体の対策としてクリーンエネルギー・低燃費・低排出車の普及に向けた取組の推進が必要。

また、過度にマイカーに依存するライフスタイルを見直し、徒歩・自転車・公共交通を中心とした移動への転換推進が必要。

「横浜市中期 4 か年計画 2014～2017」

施策 33

環境未来都市にふさわしいエネルギー施策と低炭素なまちづくりの推進

3 低炭素型次世代交通の普及促進

所管局

環境創造局、都市整備局、
温暖化対策統括本部

水素等の活用に向けて、燃料電池自動車等をはじめとした次世代自動車の普及を図ります。また、超小型モビリティ等を活用した大規模シェアリングや都心部におけるコミュニティサイクルなどの取組を推進します。

1 次世代交通の普及促進

- ・走行中のCO2 排出の無い、EVやFCV(燃料電池車)の普及
- ・燃費性能の良い車両の選択

例) ターボと小型エンジンの組み合わせによる燃費向上
 環境性能と燃費性能を両立させたクリーン・ディーゼル
 大幅な燃費向上を実現したプラグインハイブリッドやハイブリッド
 (同じ走行台キロならば、燃費が2倍になればCO2排出量も半分になる。)



水素ステーションの展開

- ①旭区 (2015年2月開所)
・実証実験が終了した施設を商用化に向けて整備
- ②泉区 (2015年2月開所)
・既存ガソリンスタンドに水素ステーションを増設
- ③南区 (2016年3月開所)
・既存ガソリンスタンドを水素ステーションとして整備
- ④港北区 (2017年開所予定)
・サステナブル・スマートタウンの敷地内に
固定式水素ステーションを整備
- ⑤中区 (2015年11月開所)
・市有地を活用した移動式水素ステーション
- ⑥都筑区 (2016年2月開所)
・大型商業施設 (IKEA港北店) への
移動式水素ステーションの設置



2 シェアリング ～基本的な考え方～

ライフスタイルから考える

- ・過度にマイカーに依存する生活スタイルからの脱却
- ・徒歩や自転車、バスや電車などの公共交通を中心とした移動
- ・**車を所有する生活からシェアリングへの転換**

所有



共有

- ・確実に走行台キロが減少し、CO2排出量も減らすことが可能
- ・環境面だけでなく、健康面や経済面でもプラスの効果が期待できる。

(基礎的なインフラの整備が必要、交通弱者への対応など幅広の施策が重要)



2 シェアリング ～基本的な考え方～

超小型モビリティの有効性や安全性、ワンウェイカーシェアリング、コミュニティサイクルのニーズなど、今後の車社会や市民の移動手段のあり方を検証する取り組みを実施

- ① ワンウェイ型カーシェアリング「**チョイモビ ヨコハマ**」
- ② スマート ワンウェイ カーシェアリング「**smaco**」
- ③ 都心部コミュニティサイクル「**baybike**」

期待される効果

1. 低炭素交通の推進
2. 都市生活・移動のクオリティアップ°
3. 横浜観光の振興



2 シェアリング ～チョイモビ ヨコハマ～ 実施概要



日本では最大規模の
超小型EVを活用したワンウェイカーシェア



■ 超小型モビリティを使用したワンウェイ型カーシェアリング実証実験

省エネ・低炭素化に寄与する、自動車よりもコンパクトな「超小型モビリティ」が、地域の新たな移動手段として普及するよう先導導入

- ・事業主体：日産自動車、横浜市
- ・期間：2013年10月～2015年9月（2年間）
- ・規模：車両70台（最大）、貸渡・返却ステーション約60か所（駐車枠約110台分）

2 シェアリング ～チョイモビ ヨコハマ～ 利用実績

■登録会員数：約13,000人

■主な利用実績：

- ・1日平均利用回数：約80回
- ・延べ利用回数：約56,000回
- ・延べ利用距離：約220,000km

※1回あたりの利用実績

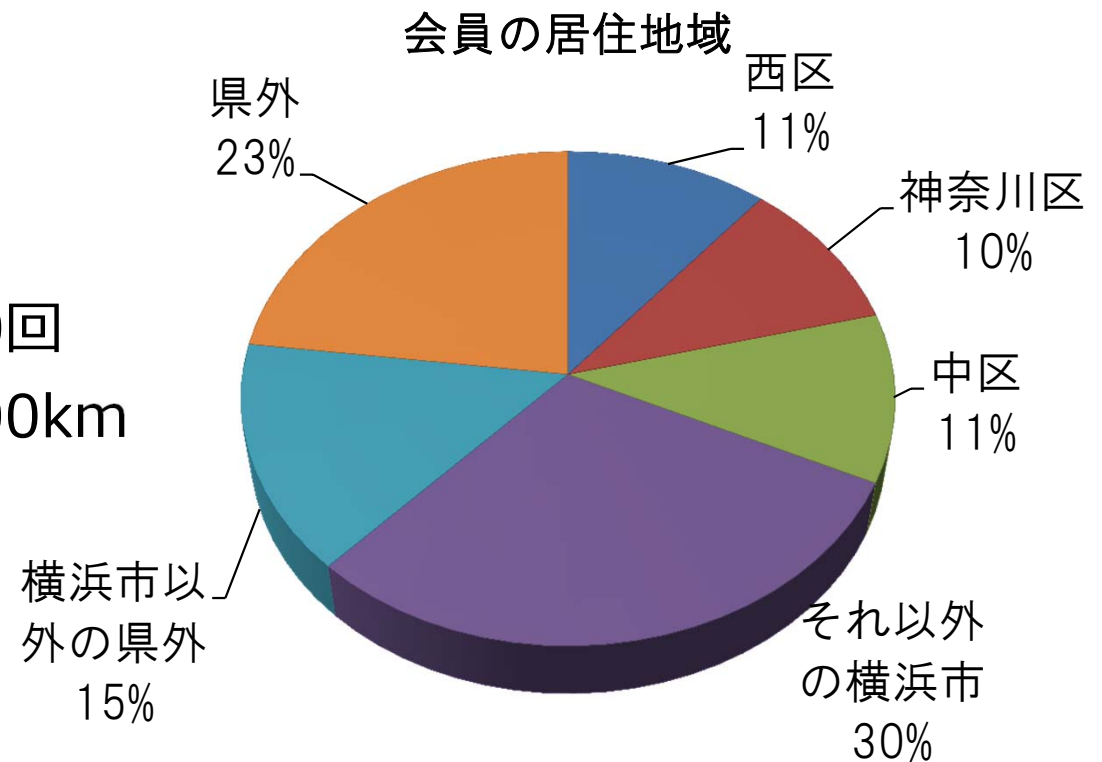
- ・利用時間：約13分
- ・移動距離：約3km

■主な利用目的

- ①観光・レジャー ②日常の買い物、用足し ③車両の試乗

◎課題

- ・車両の偏在化を是正するための車両の回送・再配置に係る運営コスト
- ・カーシェアシステムのイニシャル・ランニングコスト
- ・貸渡・返却場所の柔軟な運用（路上での貸渡・返却の実現など）



2 シェアリング ～チョイモビ ヨコハマ～ 今後の展開

- ・カーシェア実証実験時の利用目的として最も多かった **「観光・レジャー」**での利用に着目しレンタカー型の運用を実施中
- ・**市内ホテルとの連携、ガイドツアー**など、「観光・レジャー」ニーズの受け皿となる取組を実施

■車両の貸渡・返却場所



■取組概要

- ・実施主体：日産自動車、横浜市
- ・実施期間：平成27年10月26日
～平成28年9月15日（予定）
- ・貸渡・返却場所、運行台数
：4か所、10台
- ・利用料金：1,080円／1時間（税込）
1日最大8,640円

◎ 今後に向けて

「観光・レジャー」利用の拡大とともに、カーシェアリング運用の再開を検討

2 シェアリング ～ワンウェイ型カーシェアリング「smaco」～

国の規制緩和通知
(平成26年3月) を活用した
国内初のワンウェイ型カーシェア



- ◎実施主体 : メルセデス・ベンツ日本、オリックス自動車、アマノ
- ◎実施期間 : 平成26年9月～平成27年9月
- ◎運用台数 : スマート電気自動車20台 (2人乗り)
- ◎貸渡返却箇所 : 市内9か所
- ◎中心エリア : みなとみらい、元町中華街、新横浜など
- ◎運営方法 : PC・スマートフォン等で予約
- ◎利用料金 : 200円/15分

◎課題

- ・ビジネスモデル化には、車両台数、貸渡・返却場所の規模拡大が必要
- ・EV充電設備の拡充、ユーザーによるEVへの認知と体験

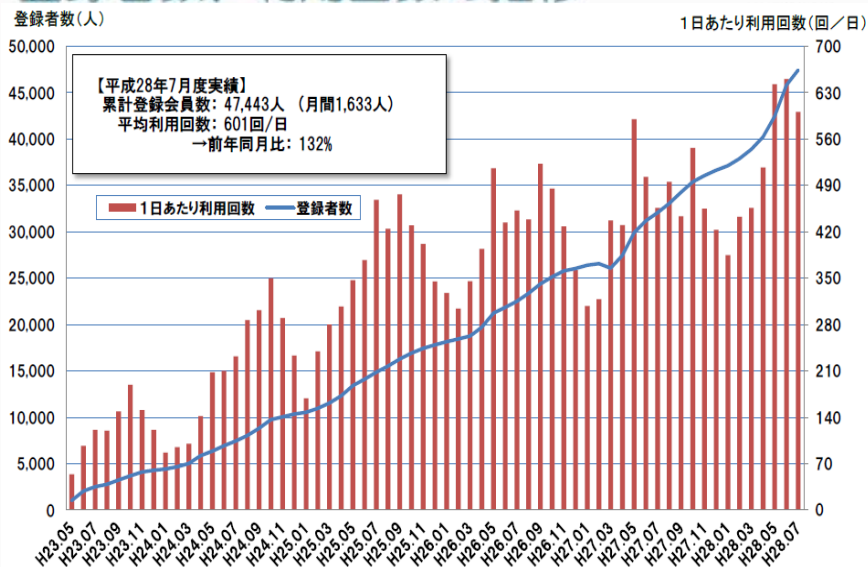
2 シェアリング ～コミュニティサイクル『baybike』～



- **登録者数 4万7千人** を突破
(2016年7月末現在)
- **1日平均利用回数 約600回**
(2016年7月実績)

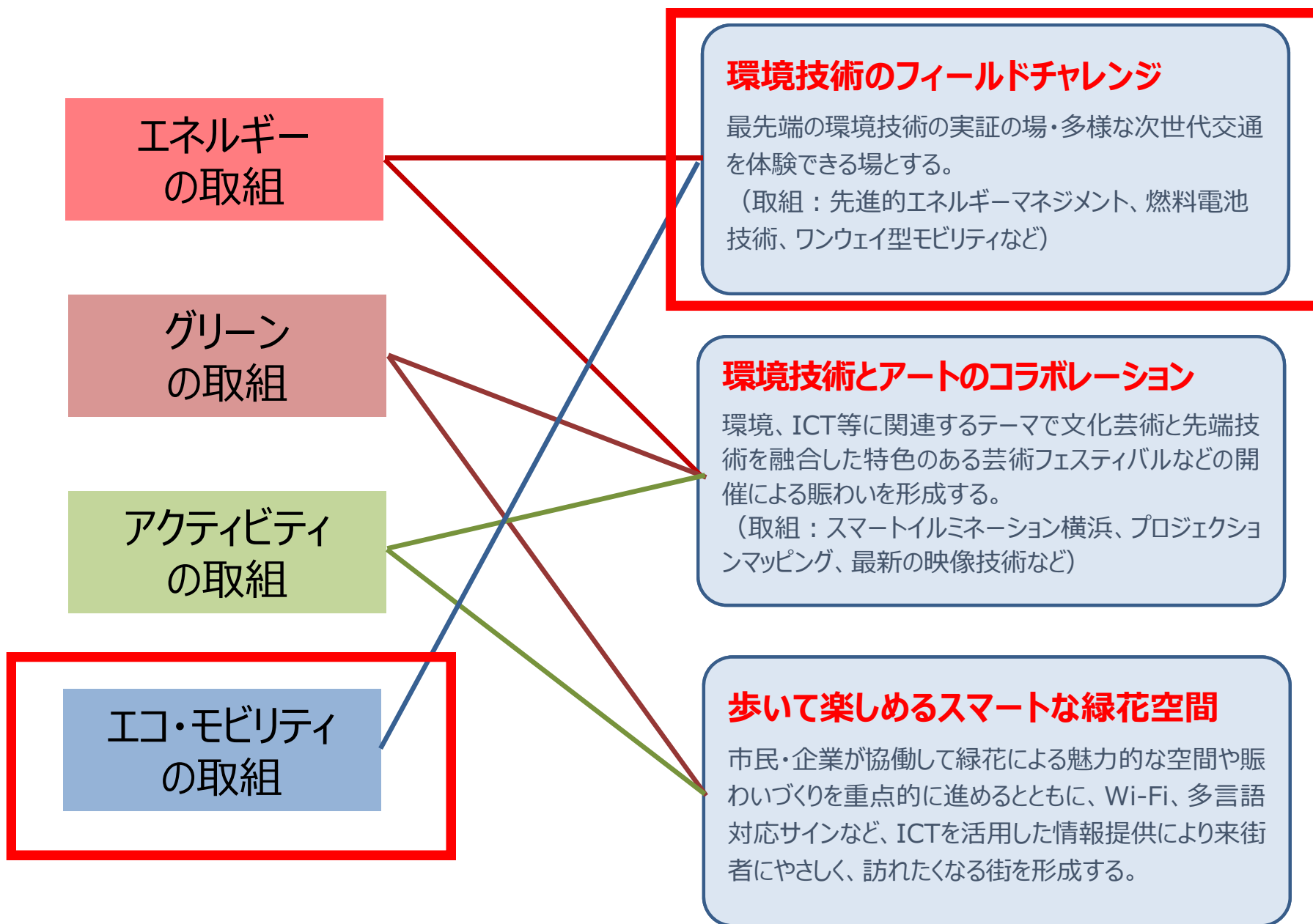


登録者数、利用回数の推移



- ◎ 主体 : 横浜市 (実施主体)
(株)ドコモ・バイクシェア (運営主体)
- ◎ 実施期間 : 平成26年4月～平成31年3月
(最大10年間まで延長)
- ◎ 運用台数 : 400台
- ◎ ポート数 : 45か所
- ◎ 利用料金 : 登録無料 / 利用料金30分150円～
- ◎ その他 : 2015年3月から電動アシスト付に

3 都心部の活性化 ～みなとみらい2050プロジェクト～

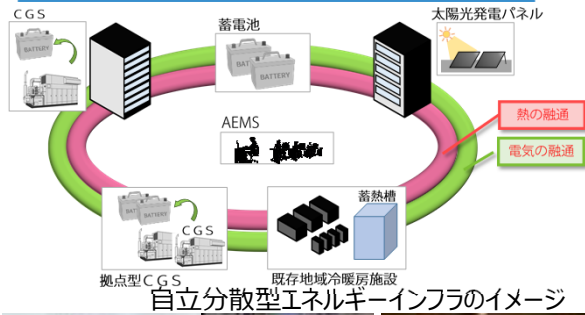


3 都心部の活性化 ～みなとみらい2050プロジェクト～

～スマートなまちづくりに向けた環境ショーケース～

環境技術のフィールドチャレンジ

・最先端の環境技術の実証、展示の場



省エネルギー技術の展示・実験
写真：千葉大学

AEMSイメージ
(柏の葉スマートセンター®)

・多様な次世代交通の体験の場



国内で実用化・技術開発の進むパーソナルモビリティの一部

環境技術とアートのコラボレーション

環境、ICTに関連するテーマで 文化芸術と先端技術を融合



TOKYO STATION VISION
(©JR東日本/NEP)



スマートイルミネーション横浜



香港ミッドオータム・フェスティバル 2013
ペットボトルで作られた中秋節の巨大ランタン
写真：香港政府観光局

歩いて楽しめるスマートな緑花空間

市民・企業の協働による緑花、 魅力的な空間や賑わいづくり



新たな公園利用のイメージ (ニューヨーク)



市民協働による緑化

歩道におけるベンチ・植栽設置
(丸の内仲通り)



花と緑による賑わいの創出

花と緑による環境未来都市の演出

エリアマネジメント

ICTネットワーク

3 都心部の活性化 ～みなとみらい2050プロジェクト～



みなとみらい21地区の新たな展開



水陸両用バス社会実験

街と海の観光をシームレスに結ぶ

◎事業者：

「～水・陸 新発見！横浜みなとまちめぐり プロジェクト～」
(構成法人：日の丸サンズ株式会社、シティアクセス株式会社)

◎実験期間：平成32年3月末まで



連節バスなどの新たな交通の導入

都心臨海部の地域全体の回遊性や連携強化に寄与し、
市民や観光客の利便性を更に高める

短期的には2020年までに、バスを活用した
新たな交通（高度化バスシステム）を導入

3 都心部の活性化 ～みなとみらい2050プロジェクト～

『ヨコハマ未来モビリティ展』

○2016年3月11日、12日@パシフィコ横浜展示ホール

『未来を感じる次世代のモビリティを見て、触れて、体感できるイベント』



WHILL Model A



ウイングレット



Murcus



UNI-CUB β



Ninebot mini Pro



Ninebot E



チョイモビ ヨコハマ



マルチパーパスモビリティ



マイクロモビリティ



baybike

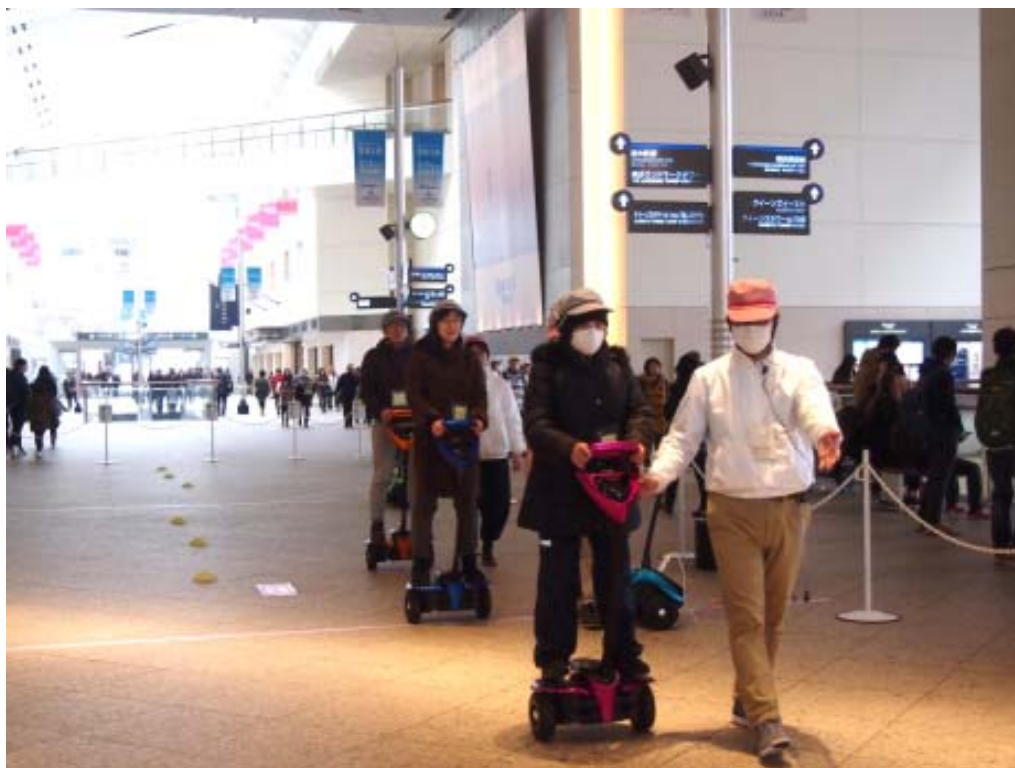
3 都心部の活性化 ～みなとみらい2050プロジェクト～

『ヨコハマ未来モビリティ展』

○2016年3月13日

- ・UNI-CUB βツアー@横浜ランドマークタワー
- ・ウイングレット試乗体験@クインモール

・みなとみらい21地区での実装化を目指した取組実施



ご清聴ありがとうございました。

